

外来の指標



糖尿病

糖尿病の患者の血糖コントロール



救急車

救急車受け入れ割合



定期検査

慢性疾患患者の定期検査実施



病院連携

初診患者の紹介・逆紹介



透析ケア

透析患者へのケア



患者満足

外来患者満足度



外来通院患者の糖尿病コントロール

<糖尿病とHbA1c>

ヘモグロビンとは、血液の赤血球に含まれているタンパク質の一種で、酸素と結合して酸素を全身に送る役目を果たしています。このヘモグロビンは、血液中のブドウ糖と結合し、ヘモグロビン(Hb)A1cとなる性質を持っています。血液検査の結果、このHbA1cの値が高ければ高いほどたくさんのブドウ糖が余分に血液にあるために、ヘモグロビンと結合してしまったとことがわかります。糖尿病患者のHbA1cの目標値は、「早期から良好な血糖値を維持」として7.0%未満とし、高齢者など「治療強化が困難な際の目標」として8.0%未満。患者一人ひとりの目指すべきHbA1cの値は、「治療目標は①年齢、②罹病期間、③臓器障害、④低血糖の危険性、⑤サポート体制などを考慮して個別に設定する」ことになり、患者さんと主治医の同意のもと、患者さんごとの背景に合わせた目標値が掲げられることとしています。



外来糖尿病患者のHbA1c年齢基準内割合

分子	年齢区分別HbA1c目標値達成患者
分母	血糖降下剤またはインシュリン処方患者の患者

表示：%

年齢別糖尿病患者の合併予防のためのHbA1c目標値

	65歳未満	65-74歳	75歳以上
HbA1c目標値	7.0未満	7.5未満	8.0未満

* 認知機能正常かつADL自立の場合
 参) 高齢者糖尿病の治療向上のための日本糖尿病学会と日本老年医学会の合同委員会

高齢者のHbA1c目標値については、認知機能・ADL状態の違いによって目標値が異なりますが、今回はもっとも厳しい基準の「認知機能正常かつADL自立の場合」の目標値を達成判定基準に選択しました。

<指標と結果>

血糖降下剤またはインシュリン処方患者のHbA1c

2020年 65歳以上の患者の割合：79%

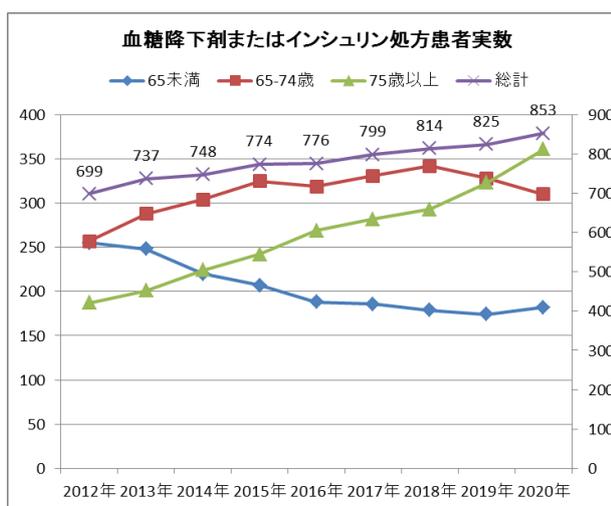
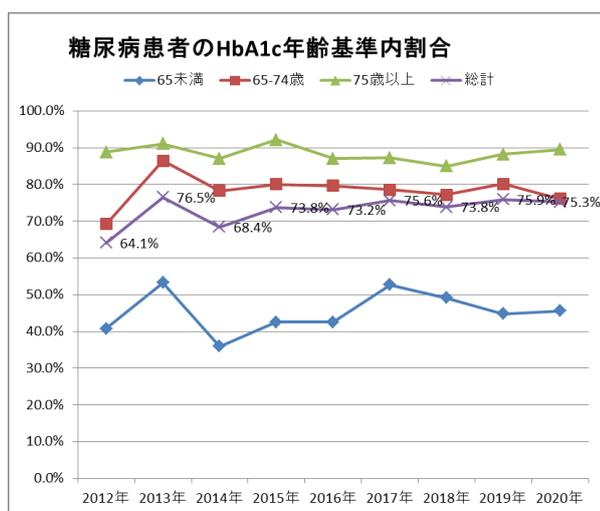
年齢区分	7.0未満	7.5未満	8.0未満	8超え	計	年齢基準内	年齢基準内割合
65未満	83	43	18	38	182	83	45.6%
65-74歳	148	88	49	25	310	236	76.1%
75歳以上	165	109	49	38	361	323	89.5%
				総計	853	642	75.3%

当院の糖尿病治療患者は高齢者の割合が高く、全体の79%が65歳以上となっています。2020年の結果は、患者全体で75.3%が目標値内の値となっており、年齢区分別では、最も高いのが、75歳以上の89.5%。最も低いのは65歳未満の45.6%でした。

血糖降下剤またはインシュリン処方患者HbA1c年齢基準内割合

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
65未満	40.8%	53.2%	35.9%	42.5%	42.6%	52.7%	49.2%	44.8%	45.6%
65-74歳	69.3%	86.5%	78.3%	80.0%	79.6%	78.5%	77.2%	80.2%	76.1%
75歳以上	88.8%	91.0%	87.1%	92.1%	87.0%	87.2%	85.0%	88.2%	89.5%
総計	64.1%	76.5%	68.4%	73.8%	73.2%	75.6%	73.8%	75.9%	75.3%

年比較を行うと、大きな変化はなく、一定の水準で治療が行われています。



また、治療患者実数の年推移をみると、年々増加し、かつ75歳以上の治療患者が増加を続けており、65-74歳は2018年をピークに減少しています。今後、地域の糖尿病治療に認知機能・ADL等の高齢者に配慮した糖尿病治療の工夫が求められています。

<当院の取り組み>

認知症のある患者への糖尿病教育入院パス（オレンジコース）作成の取り組み

糖尿病患者の高齢化に伴い、2020年みどり病院では高齢患者向けの教育入院パスを作成しました。年齢の制限は設けていないが、外来にて認知機能低下が疑われる患者を中心に、本人・家族指導が必要な患者、インスリン自己注や自己血糖測定導入のため指導が必要な患者を主な対象として行っています。

<特徴>

- 入院に際し、問診票を修正し、患者の生活（食事時間・内容、内服管理方法、家族の在宅時間、日中の活動、認知症の程度等）について、より詳しく情報をとっています。
- 入院早期に患者の身体能力や認知機能を評価し、適切な介入が行えるようにしています。
- 認知症認定看護師に介入を依頼し、患者本人の認知機能・個別性を踏まえた介入をアドバイスしてもらえるようにしています。
- 各種評価を元に、他職種カンファレンスを入院1週目に行うことで、各担当者が統一した対応ができるようにしています。

- ・「自宅に持ち帰ってもらうパンフレットは1枚」と大幅に削減し、指導内容を減らした。わかりやすく完結にしています。
- ・入院を機会に、家族にも介入してもらえるように家族指導の充実を図っています。

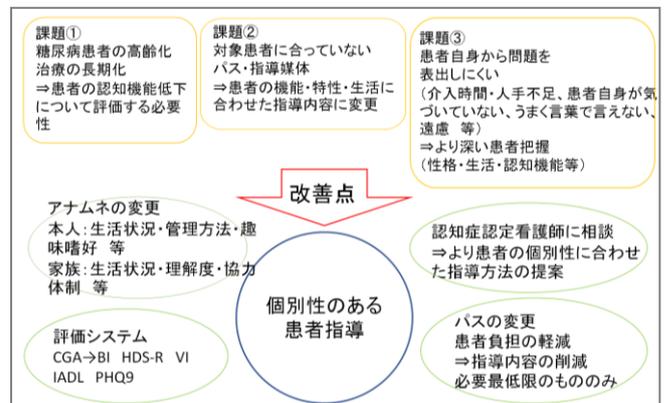
<事例>

指導は、個別性を踏まえたものにしていくことで、手技の獲得を目指しています。

事例1) Aさんは認知機能低下が軽度だったものの、新しいことを覚えることが難しく、インスリン自己導入1点に絞って指導を行った。「パンフレットをめくって次の手技をする」「インスリンを打った日にはカレンダーに○をする」等の習慣付けを行い、手技獲得できた。退院後は外来Nsや訪看に協力してもらい、自己注できたかの確認を行いました。

事例2) Bさんは元々インスリン自己注をされていた方だが、自己注手技が煩雑になっていたり、内服もきちんと飲めていなかったりしたことがわかりました。家族も本人任せにしていた部分があり、認知症についての理解と見守って欲しいことの注意点を指導し、本人・家族と共有しました。

事例3) Cさんは間食過多でHbA1cが悪化してしまい、インスリン自己注の導入となりました。認知機能低下は軽度だが、新しいことを覚えることや細かい作業が難しい状態でした。このため、パンフレットをCさんが行える手技に変更して作り直しました。



「インスリンボール」チェックと指導（すこやか診療所）

すこやか診療所では2021年2月現在インスリン自己注射患者約135名いらっしゃいます。そのインスリン自己注射患者へ「インスリンボール」チェックと指導を行いました。

【インスリンボールとは？】

- ・インスリン注射部位の皮膚病変：インスリンの皮下注射を繰り返し行っていると皮膚の下に塊ができます。
- ・インスリンボール（皮下の下にインスリン由来のアミロイドが沈着した硬い腫瘤）インスリンリポハイパートロフィー（インスリンによる脂肪肥大、比較的柔らかい腫瘤）です。
- ・皮膚の赤みやかゆみの原因になる事があります。
- ・インスリンボール部位に注射する事で、針を抜いた後、注射部位からインスリンが漏れてしまう事があります。
- ・インスリンボール部位に注射する事はインスリン吸収が悪くなり期待する効果が得られない可能性があります。

≪指導の実際≫

- ①予診後腹部に直接触れ注射部位の皮膚の性状、硬さのチェック

②導入当時の指導内容に傾聴しその内容をどう理解しているのかの確認

③痛みを感じていないところばかり打っていないかの確認と、「サイトローテーションシート」を使って、注射部位は臍を中心に 2~3~4cm 離して左右はもちろん、広範囲に場所を毎回変える、低血糖に注意、その意味と指導

④皮膚のつまみ方（つままなくてもよい場合もある）の指導

⑤インスリン手技（デモ器使用）の確認

インスリンボールがあった患者で「運動しているのに血糖が下がらない」と訴える事例のなかに、インスリンボールのできているところにインスリンを打っていること事例があった。これらの患者に対し、インスリン注射箇所を変えることでHbA1cの改善が見られた事例がみられました。

また、一度インスリンボール状態になると皮膚の改善が見られなくなるためチェックは必要と改めて感じました。 今後も、他スタッフと情報共有しながら指導の継続をしていきます。

[外来 TOP に戻る](#)



慢性疾患患者の定期検査実施

慢性疾患医療において、傷病の悪化・合併症、癌の早期発見・早期治療の為に、定期検査がかかせません。みどり病院および同一法人診療所では、定期通院の慢性疾患患者に対し、通院状況の確認・定期検査の実施状況の確認を行い、患者への電話かけ・手紙送付、主治医への依頼を行っています。また、みどり病院では、誕生日検査おすすすめを行い、定期的な検査の実施を推進しています。

患者のみなさんへ

— みどり病院からのご連絡 —
みどり病院では患者のみなさんによりよい療養を続けていただくために、いくつかのお願いをしています。

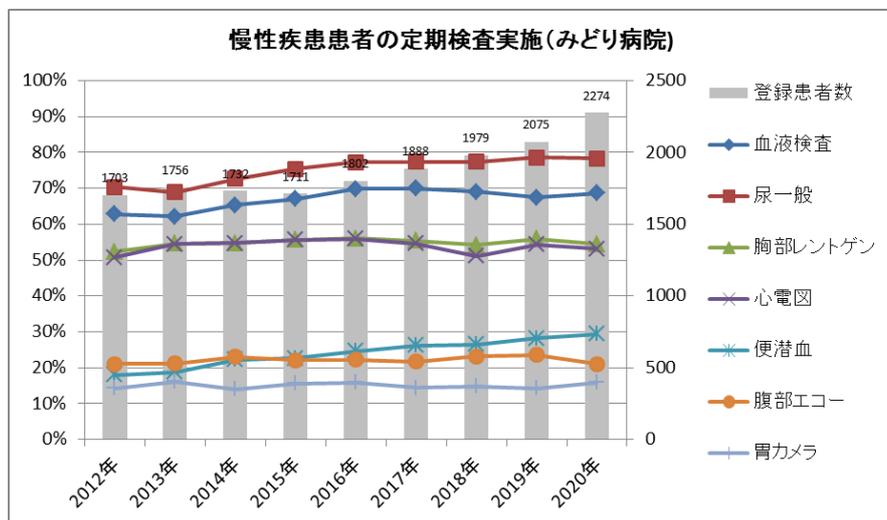
- ・お薬がなくなる前の受診をお願いします。できるだけ、主治医を決めて、予約診療での受診をお願いします。
- ・予約の時間に来院されなかったり、しばらく受診がなかったりした場合には、看護師などの職員から電話連絡等を入れさせていただいております。
- ・容体を把握し、安全に薬などの治療を続けるためには定期的な検査（血液、尿、レントゲン、心電図など）が欠かせません。また、全体的なチェックのための検査もお願いしています。
- ・疾患別に患者会や学習会を企画・開催しています。お気軽にご参加ください。



<慢性疾患患者の定期検査実施>

年ごとの慢性疾患患者の内、当年に1回以上検査の実施があった患者を検査ありとして、実施率を計測しました。

●みどり病院

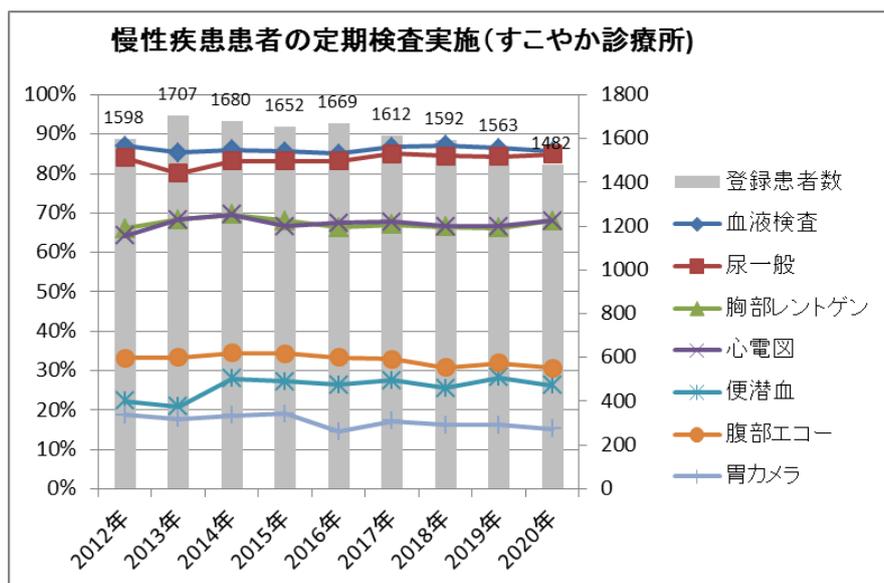


	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
血液検査	63%	62%	65%	67%	70%	70%	69%	67%	69%
尿一般	70%	69%	73%	75%	77%	77%	77%	79%	78%
胸部レントゲン	52%	55%	55%	56%	56%	55%	54%	56%	54%
心電図	51%	54%	55%	56%	56%	55%	51%	54%	53%
便潜血	18%	19%	22%	23%	25%	26%	26%	28%	29%
腹部エコー	21%	21%	23%	22%	22%	22%	23%	24%	21%
胃カメラ	14%	16%	14%	16%	16%	14%	15%	14%	16%
登録患者数	1703	1756	1732	1711	1802	1888	1979	2075	2274

みどり病院の慢性疾患患者の定期検査の実施状況をみると、血液検査、尿一般検査、胸部レントゲン、心電図で実施率が50%を越えています。特に尿一般検査は78%の患者が検査を行っています。一方で便鮮血検査、腹部エコー検査、胃カメラは30%未満の実施率となっています。

患者数は年々増加傾向にあります

●すこやか診療所



	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
血液検査	87%	85%	86%	86%	85%	87%	87%	87%	86%
尿一般	84%	80%	83%	83%	83%	85%	84%	84%	85%
胸部レントゲン	66%	68%	70%	68%	66%	67%	67%	66%	68%
心電図	64%	68%	70%	67%	68%	68%	67%	67%	68%
便潜血	22%	21%	28%	27%	26%	28%	26%	28%	26%
腹部エコー	33%	33%	35%	34%	33%	33%	31%	32%	31%
胃カメラ	19%	18%	19%	19%	15%	17%	16%	16%	15%
登録患者数	1598	1707	1680	1652	1669	1612	1592	1563	1482

すこやか診療所の慢性疾患患者の定期検査の実施状況をみると、みどり病院よりも実施率が高い傾向にあります。特に、血液検査、尿一般検査、胸部レントゲン、心電図で実施率は65%を越えており、血液検査、尿一般検査は85%以上となっています。一方で便鮮血検査、胃カメラはみどり病院よりも低い実施率となっていました。

患者数は2017年以降減少傾向にあります。

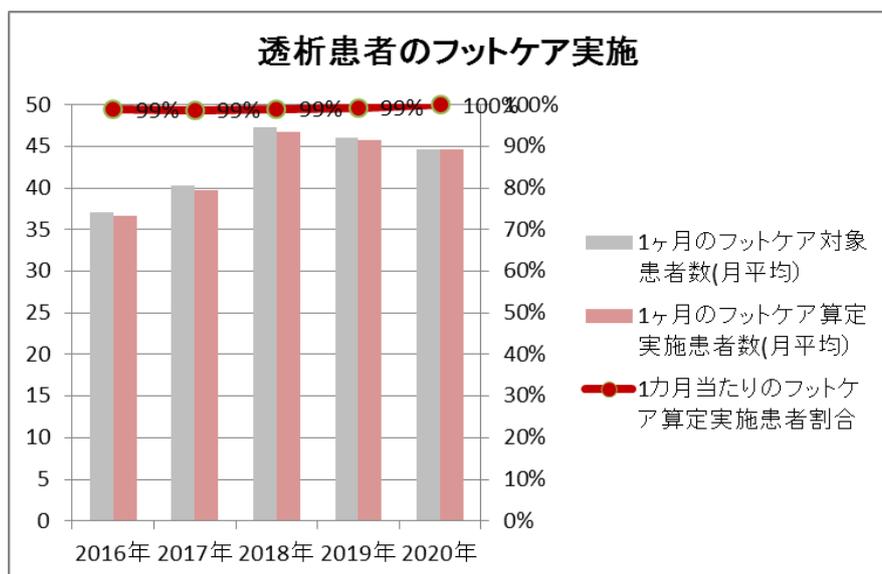
[外来 TOP に戻る](#)



透析患者へのケア

<透析患者へのフットケア>

糖尿病性腎症などにより透析治療を受けておられる患者の足は、足の冷え・痺れ・痛み、潰瘍(皮膚や粘膜が様々な原因で傷害され、それが進行することによっておこる組織の欠損)の形成などが起こりやすくなっています。その原因は動脈硬化や末梢血管障害のために血液の循環が悪くなるからです。さらに、傷(潰瘍)が悪化し、壊疽に陥った場合、足の切断に至る場合もあります。また、糖尿病の患者は、神経障害により足の感覚が鈍くなり、足の異常の早期発見を困難にしてしまいます。そのため、フットケアを通して、足の症状の早期発見・早期治療に努める必要があります。



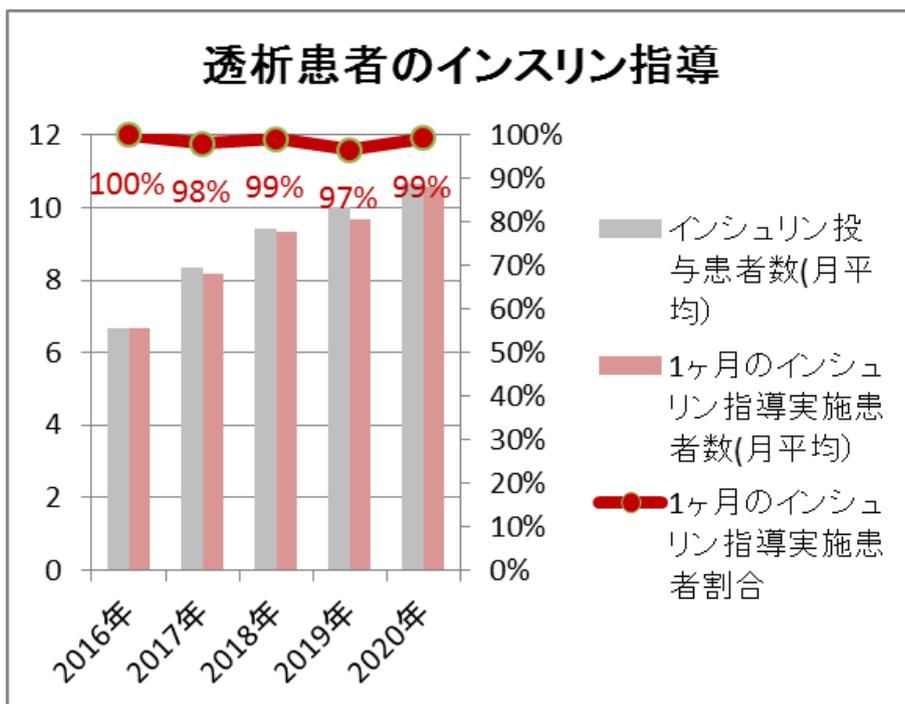
当院隣接診療所すこやか診療所透析センターでは年間目標の一つに患者の下肢救済に努めるという事項を挙げています。下肢救済とはつまり下肢切断の回避であり、そのための対策としてフットケア実施率100%などを目標として全スタッフが意識して取り組んでおり、2016年以降98%以上を維持しています。

＜インスリン投与患者へのインスリン指導＞

透析導入原因疾患の第一が糖尿病性腎症です。糖尿病性腎症は、網膜症、神経障害と並んで、糖尿病の三大合併症の一つであり、糖尿病性細小血管障害の代表です。日本人では2型糖尿病患者の32%が糖尿病性腎症を合併しています。透析導入後も、糖尿病の適切なコントロールが、その後の網膜症、起立性低血圧、四肢の潰瘍・壊疽、心血管合併症などの防止に大きく影響します。

すこやか透析センターへ通院されている患者の内、イン

シュリン投与患者へのインスリン指導実施率は2016年以降97%以上を維持しています。



[外来 TOP に戻る](#)



2014年10月の回復期リハ病棟開設以降、一般急性期病棟半減により受入可能な病床数が大幅に減少しましたが、「地

域からの要請を断らない」を合い言葉に積極的受入に取り組んできました。

しかし満床や個室部屋満室の為、断らざるえない場合があります。

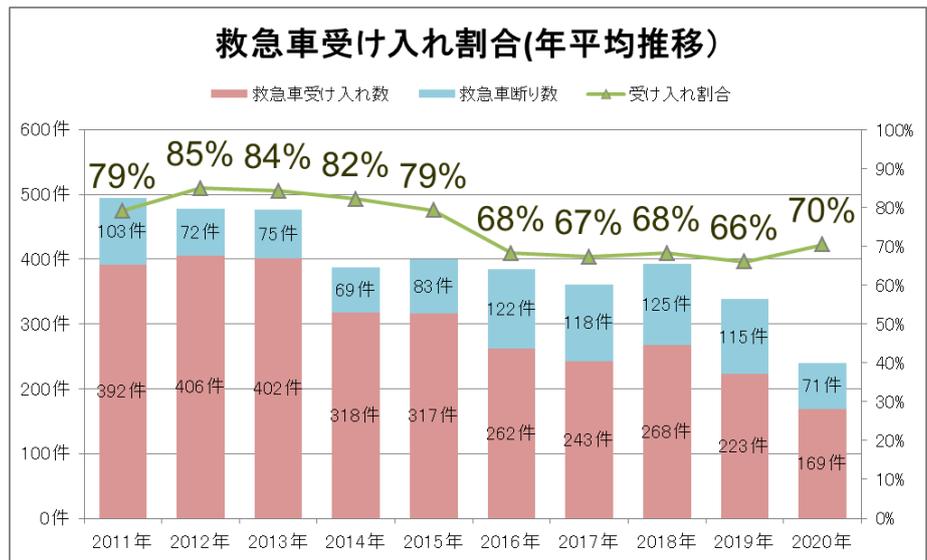
2020年は66%(2019年)⇒70%に上昇しました。

ただし、要請件数・受入実数は減少しています。

救急車受入割合

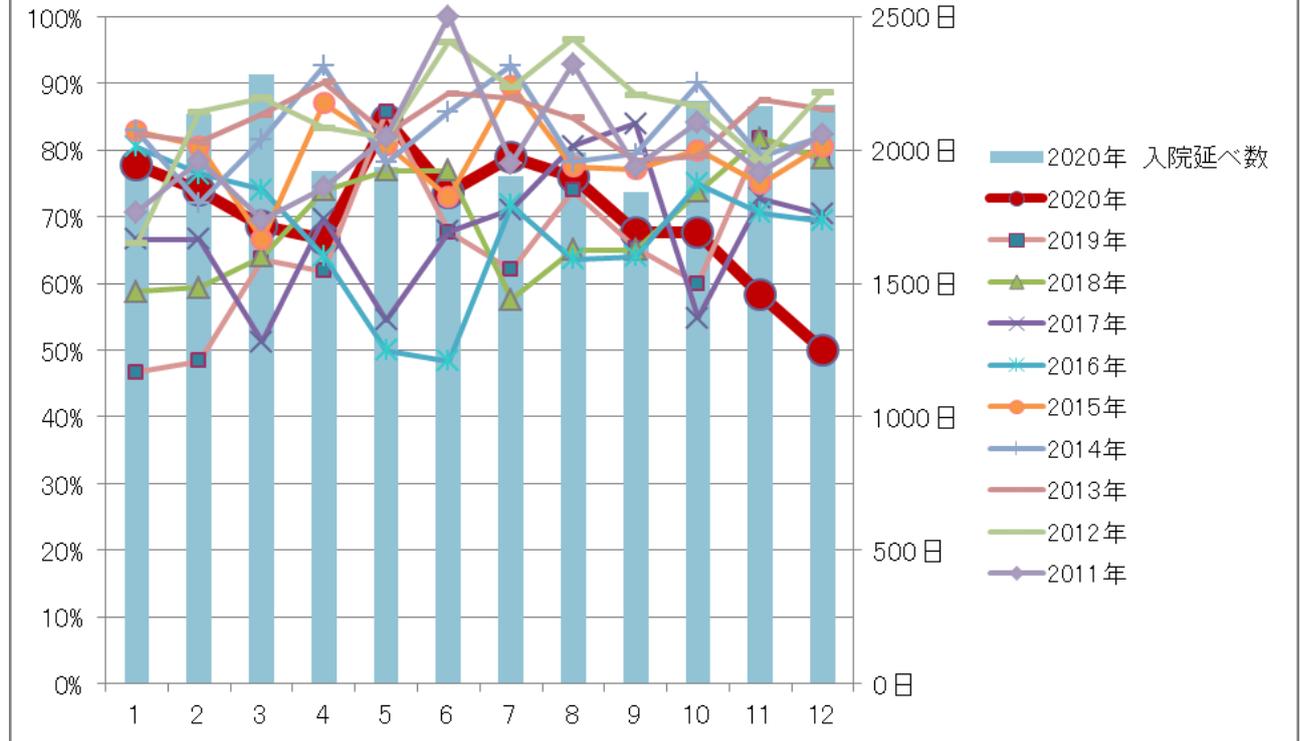
分子	内、受入件数
分母	救急車要請件数

表示: %



病棟の空きベッド状況は受入に大きく影響することから、延べ入院日数と受入割合を比較すると、2020年は延べ入院日数が減り、受入割合は増加する関係となっていました。

救急車受け入れ割合(月推移)



月毎の変化を見ると、2020年は新型コロナウイルスの影響による地域病床数の逼迫等により当院も10月移行延べ入院日数が大きく上昇し、それに伴って、救急車受入割合が減少しております



初診患者の紹介・逆紹介

地域医療の重要性が問われている現在、病院間の連携は、患者のより充実した医療を実現する上

で非常重要です。当院は、周辺地域の診療所などからより詳細な検査・診療の依頼・コンサルト依頼を受け、その結果を返しています。また、より高度な医療が必要と判断した場合には専門医療機関へ紹介する橋渡しの役割も担っています。

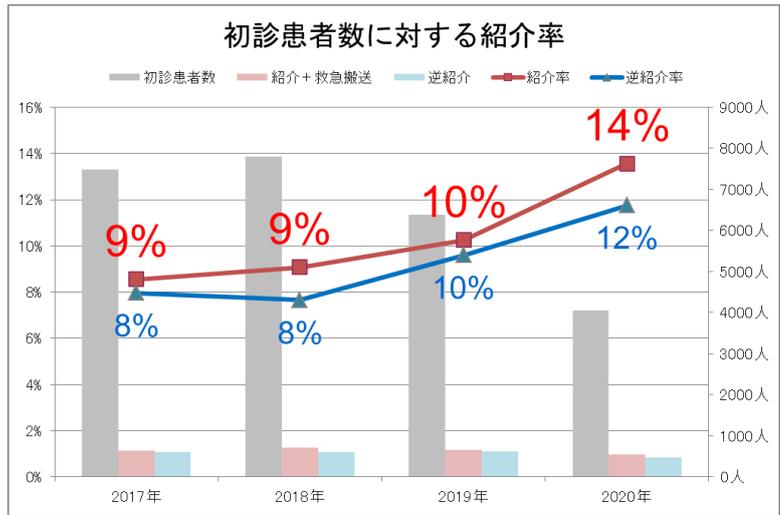
当院の紹介件数（紹介状ありの初診患者）・逆紹介件数（初診診療後に他院へ紹介状を送った患者）は、10%(2019年)→14%(2020年)に微増しました。

ただし、母数の初診患者数が減少しており、紹介・逆紹介の実数は減少しています。

初診患者の紹介率と逆紹介率

分子	内、紹介(逆紹介)が行われた患者
分母	当月初診算定患者

表示：年間合計



	2017年	2018年	2019年	2020年
初診患者数	7476人	7793人	6376人	4058人
紹介率	9%	9%	10%	14%
逆紹介率	8%	8%	10%	12%
紹介+救急搬送	639人	707人	653人	550人
逆紹介	595人	596人	612人	477人

* 件数は月平均

[外来 TOP に戻る](#)



外来患者満足度

みどり病院・すこやか診療所では毎年、年に1回1週間の期間を設け、来院患者に満足度調査アンケートを行っています。回収されたアンケート件数は、みどり病院(168件)、すこやか診療所(196件)でした。評価は各項目別に5段階評価でおこないます。

評価点数

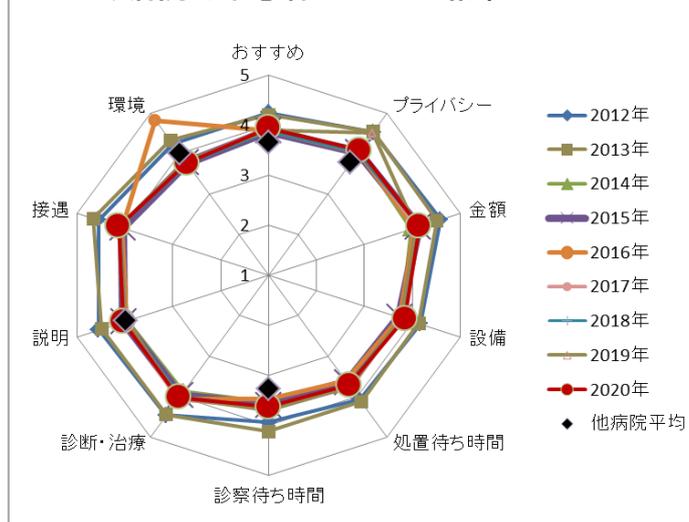
5	大変良い
4	良い
3	普通
2	悪い
1	大変悪い

おすすめ : おすすめ度

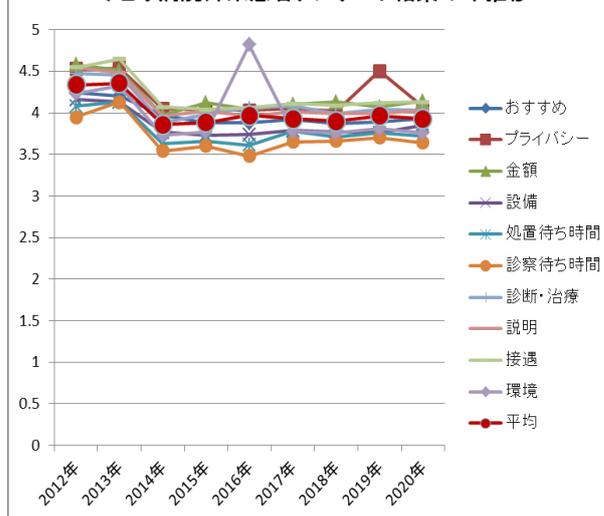
プライバシー	: プライバシーへの配慮
金額	: 金額の内訳はわかりやすい
設備	: 医療機器等の設備の充実
処置待ち時	: 外来処置室の待ち時間
診察待ち	: 診察・会計の待ち時間
診断・治療	: 医師の診断治療について
説明	: 病気・検査・薬の説明
接遇	: 職員の印象・接遇
環境	: 院内の環境(玄関・待合・トイレ等)

●みどり病院

みどり病院外来患者アンケート結果



みどり病院外来患者アンケート結果の年推移

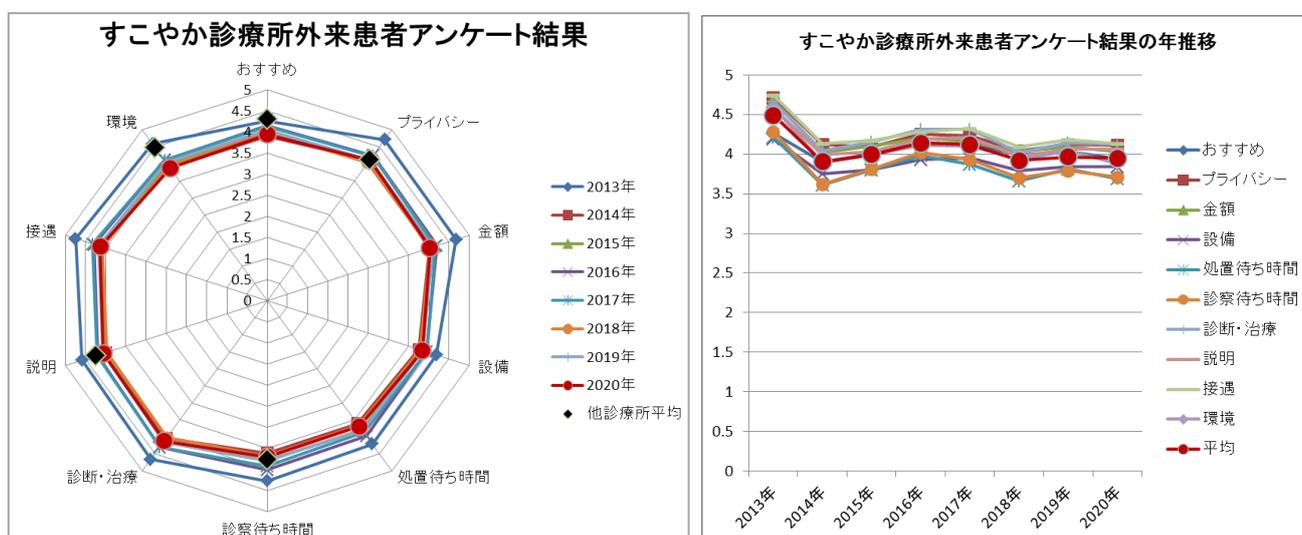


	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	他病院平均	昨年差	他院平均差
おすすめ	4.24	4.2	3.97	3.88	3.88	3.92	3.87	3.89	3.93	3.64	0.04	0.29
プライバシー	4.53	4.54	4.05	4.03	4.03	4.05	4.02	4.5	4.07	3.77	-0.43	0.30
金額	4.58	4.51	3.97	4.12	4.04	4.1	4.13	4.07	4.14		0.07	
設備	4.16	4.13	3.77	3.73	3.74	3.79	3.77	3.76	3.85		0.09	
処置待ち時間	4.08	4.13	3.63	3.66	3.61	3.78	3.71	3.76	3.72		-0.04	
診察待ち時間	3.95	4.13	3.54	3.6	3.48	3.65	3.66	3.7	3.64	3.29	-0.05	0.35
診断・治療	4.47	4.45	3.88	3.98	4.06	4.08	3.99	4.04	4.03		-0.01	
説明	4.55	4.48	3.96	4.02	3.96	4.01	3.99	3.99	4.03	3.98	0.04	0.05
接遇	4.55	4.65	4.07	4.04	4.06	4.11	4.09	4.12	4.13		0.01	
環境	4.23	4.32	3.73	3.77	4.82	3.78	3.76	3.81	3.76	4.01	-0.05	-0.25
平均	4.33	4.35	3.86	3.88	3.97	3.93	3.90	3.96	3.93	3.74	0.03	0.19

2019年に大きく上昇したプライバシーへの配慮は、2020年には例年値に戻りましたが、その他の項目では、大きな変化はありませんでした。

2020年度の評価項目の中で最も高かったのは、接遇 4.13 でした。

他病院との比較では、築年数の長い当院では低くなっていますが、その他の項目では、他院平均よりも高くなっています。



	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	他診療所	昨年差	他院平均差
おすすめ	4.26	3.9	4	4.14	4.12	3.99	4.03	3.94	4.29	-0.09	-0.35
プライバシー	4.71	4.12	4.09	4.25	4.23	4.04	4.12	4.11	4.12	-0.01	-0.01
金額	4.67	4.02	4.1	4.2	4.16	4.03	4.09	4.03		-0.06	
設備	4.19	3.75	3.8	3.93	3.95	3.79	3.84	3.84		0.00	
処置待ち時間	4.21	3.61	3.8	3.98	3.87	3.66	3.81	3.69		-0.12	
診察待ち時間	4.28	3.62	3.81	4.02	3.93	3.7	3.79	3.71	3.78	-0.08	-0.07
診断・治療	4.66	4.04	4.15	4.31	4.31	4.02	4.14	4.12		-0.02	
説明	4.58	3.99	4.03	4.19	4.21	3.97	4.06	4.06	4.25	0.00	-0.19
接遇	4.74	4.13	4.17	4.28	4.32	4.09	4.18	4.13		-0.05	
環境	4.59	3.89	3.99	4.11	4.1	3.93	4.04	3.88	4.48	-0.16	-0.60
平均	4.49	3.91	3.99	4.14	4.12	3.92	3.96	3.95	4.18	0.03	-0.23

各項目の満足度は2020年は全体的に微減となりました。他診療所との比較でもやや低くなっています。ただし、みどり病院との比較ではやや高くなっていました。

2020年度の評価項目の中で最も高かったのは、接遇 4.13 でした。

今後とも患者様の声を真摯に受け止め、改善に取り組んでいきます。

[外来 TOP に戻る](#)